

令和 6 年度 第 2 回 八尾市地域ケア連絡協議会 会議資料

資料 1 令和 6 年度地域ケアケース会議報告

- ◇ 地域ケアケース会議合同定例会 . . . P. 1
- ◇ 地域ケアケース会議発言要旨 . . . P. 2 ~ 3
- ◇ 地域ケアケース会議随時会議 . . . P. 4 ~ 11

資料 2 令和 6 年度高齢者虐待について（中間報告）

- ◇ 養護者による虐待集計 . . . P. 12 ~14

資料 3 令和 7 年度地域ケアケース会議について

- ◇ 地域ケアケース会議の体制（案） . . . P. 15
- ◇ 地域ケア会議の方向性（案） . . . P. 16
- ◇ 地域ケア会議 年間予定表（案） . . . P. 17

資料 4 令和 6 年度八尾市認知症地域支援推進員業務実施報告書（中間報告） 令和 6 年度八尾市認知症初期集中支援事業実施報告書（中間報告） チームオレンジ活動について（中間報告）

. . . P. 18 ~ 22

資料 5 令和 6 年度八尾市生活支援コーディネーター業務実施報告書（中間報告）

. . . P. 23 ~ 24

令和 7 年 3 月

令和6年度 地域ケアケース会議合同定例会

資料1

第1回地域ケアケース会議合同定例会

開催日時	令和6年5月23日(木) 14:00 ~ 16:00
場 所	八尾市文化会館プリズムホール 5階 レセプションホール
内 容	(1) 令和5年度第2回 地域ケア連絡協議会の報告及び 令和6年度地域ケアケース会議の方向性について (2) 地域ケアケース会議の事務局紹介 (3) 合同学習会 ①令和5年度高齢者あんしんセンターの取り組み報告 テーマ「コロナ禍からのリスタートについて」 報告者: 龍華中学校区高齢者あんしんセンターりゅうげ 亀井中学校区高齢者あんしんセンターホーム太子堂 久宝寺中学校区高齢者あんしんセンター久宝寺愛の郷 テーマ「特殊詐欺について」 報告者: 成法中学校区高齢者あんしんセンター長生園 曙川中学校区高齢者あんしんセンターサポートやお 高美中学校区高齢者あんしんセンター成法苑 ②八尾市認知症地域支援推進員活動報告 テーマ「オレンジミーティングについて」 報告者: 八尾市認知症地域支援推進員 山本 哲也 氏 (4) 各圏域にて意見交換会
対 象 者:	八尾市地域ケアケース会議委員
参加人数:	101 名

令和 6 年度 地域ケアケース会議 発言要旨

ブロック	北部(第1圏域)	西部(第2圏域)	南部(第3圏域)
事務局	萱振苑・スローライフ北・スローライフ八尾	りゅうげ・ホーム太子堂・久宝寺愛の郷	楽寿・あおぞら・緑風園
テーマ (事例検証)	「重層的支援体制整備事業ー地域としてどう支えていくかー」	認知症に理解のある地域づくり	事例から深める 8050 問題へのかかわり ～誰がどのタイミングでかかわるのか～
課題	・重層的支援体制整備事業が開始され、「誰ひとり取り残さない共生のまち」を目指している。近年、複雑化、複合的課題があるケースが増え多分野での対応を要することもある。住み慣れた地域で住み続けるためには、地域全体の能力を高めることが必要となる。 ・今後も高齢者が増えていく状況で、すべての課題に専門職が関わることは困難になると考えられる。可能な部分は地域住民が主体となることが求められている。 ・コロナで中断していた地域活動が再開されているが、地域の担い手不足が課題になっている。民生委員の欠員も増えている。「共助」のために頑張った結果、「共助死」になっては意味がない。支援者の自己犠牲と善意に頼るやり方ではこの先成り立たない。新たな支援者の発掘や支援方法の模索が必要。	・認知症の本人や家族が疾患の理解が十分でない場合に、支援が複雑化するケースが多い。 ・認知症の診断後に、介護保険サービス等に繋がらないケースがあり、見守りや支援が途切れることがある。 ・詐欺被害やボヤ騒ぎ等の地域を巻き込んだ課題がある。 ・金銭管理の課題があり、身寄り不在や債務がある場合の支援が困難になるケースが多い。 ・成年後見制度や日常生活自立支援事業等の公的制度に繋がるまでの期間があり、その期間中の支援に課題がある。 ・日常生活自立支援事業の契約に至るまでの過程で、意思が揺れ動くケースがある。 ・本人の意思がないと申請等の支援が滞るケースがある。 ・見守りを行う時の役割分担等が曖昧になるケースがある。	・事例①90 代の母親と 60 代の娘の同居世帯で娘に精神疾患があったことで、介護サービスが必要な母親に介入ができなかった事例について、事例②90 代の母親と 50 代の息子の同居世帯で生活困窮や介護負担を発信できずに経過し、虐待につながった事例について、グループワークで検討した。 ・2 つの事例とも、子が精神疾患や学習障がいの診断を受け、正常な判断ができず、SOS のサインを出すことができなかった。 ・事例①は娘が支援者の介入を拒み続け、母親への介入が遅くなってしまった。 ・事例②はケアマネジャーがかかわり、生活保護も受給していたが、臨時収入により、生活保護が打ち切りになり、所持金が底をついた時に、生活保護の再受給につなげることができず、生活困窮や介護負担の状況を把握することが遅くなってしまった。 ・子に対する支援者の検討、複数の支援機関による包括的なアプローチが十分ではなかった。
まとめ	・地域住民の誰であっても地域づくりに参画する一員であり、地域の中で支援が届かずに悩みを抱える人に対して出来ることがある。 ・重層的支援体制整備事業における地域活動の中には、コミュニティナースのような、社会的孤立を防止するために、お互いを気にかける、街を元気にする活動もある。 ・重層的支援体制整備事業には、相談支援、参加支援、地域づくりの 3 つの事業が挙げられている。地域共生社会の実現には、サポートされる立場にいた人も、問題が解決した後はサポートする側に回れるようになる仕組みが必要である。居場所を確保し再び社会に参加できるようになるための参加支援を行うこと、また、それが実現するための地域づくりを行うことが重要である。 ・地域には住民だけではなく、幅広い専門職が存在している。こうした人や地域資源を繋げることで、幅広い世代や相談内容に関わらない、重層的支援体制を構築できるのではないかと考える。	・認知症の理解を進めるための方策が必要である。 ・見守りの役割分担や関係者が個人情報尊重しつつ、情報共有をして連携していく。 ・支援者で予防策を講じつつ、在宅生活の見極めを行っていく。 ・金銭管理の公的制度を正しく理解しつつ、制度利用に至るまでの支援をどのように構築していくかが要である。 ・家族等の認知症への理解が難しいケースでは、時間をかけて症状説明を行い、伴走型の支援が必要である。 ・成年後見制度や日常生活自立支援事業等の事業内容をよく知り、必要な方に上手く繋げることが必要である。 ・支援拒否時の介入方法としては、本人のこだわりや困り事を上手く活用する方法がある。 ・見守りを行う時の具体的な役割を決めるためには、各機関の連携が重要である。 ・認知症の理解が進み、温かく見守ることができる地域づくりが今後も必要である。	・50 代、60 代の世代は支援がない。支援が受けられることを知らず、外部から隠され続けた人もいる。年齢が上がると、自分のことは自分で解決するのが美德という考えで、支援を拒む。 ・現在は、学習障がい、発達障がいの理解が進んだことから、早期発見、早期アプローチが来ている。50 代以上の世代はまだ隠れている人が多い。いかに発見していくかが重要。 ・地域づくりは必要だが、民生委員に頼り過ぎることは負担大。生活支援コーディネーター等と地域活動の担い手を育成することが重要。 ・生活保護を開始した時点で子の生活能力の有無を適切に把握し、一旦保護が切れても、再度保護が必要になる可能性を見極める支援者の気づきが重要。 ・子の人間的発達が未成熟の場合、受診の必要性、就労の可能性を判断する為に、障がい担当とアプローチを行い、必要な支援につなげることが重要。 ・ケアマネジャーがかかわっているからと、ケアマネジャーだけに責任を持たせるのではなく、包括的に多くの機関がかかわる。それが重層的支援ではないか。 ・申請主義が根強く残るなか、アウトリーチで手を差し伸べることを展開させる為の議論が必要。

ブロック	中部(第4圏域)	東部(第5圏域)
事務局	長生園・サポートやお・成法苑	寿光園・信貴の里・中谷
テーマ (事例検証)	地域の災害対策と防災について	防災について
課題	・災害時に適切な避難行動や救助活動を行うためには、地域に住む一人一人が自分の地域にどのようなリスクがあるのかを知り、役立つ地域資源がどこまであるかを理解する必要がある。 ・避難運営マニュアルはあっても実際にはその通りには進まないことを実践報告で聞いた。地区防災計画をブラッシュアップしていく必要もある。 ・市で集約している要配慮者の避難リストや保健所での指定難病者対象の安否確認リストなど、有効に活用できないか。八尾市から発行されている防災マップの普及もしていく必要がある。 ・八尾市で想定される自然災害を地域住民が知ること、日ごろからどのような備えが必要か意識することが望ましい。 ・避難所運営ゲームを体験し、ボランティアや行政だけでは避難所の運営は難しいと体感した。住民が主体となり、共助する体制も必要になる。その際、専門職がどのように立ちフォローしていくか。	・圏域住民の災害に対する危機感が薄いと感ずるため、防災意識を上げる必要がある。 ・災害時、高齢者が行動に移せるかが分からず、行動意識を変える必要がある。 ・身近に持ち出せる備蓄の内容が分からない。 ・八尾市の公的機関で取り組んでいる状況が分からない。 ・災害時に民生委員が助けに来てくれると思われている高齢者がいる。 ・防災に対する意識は、災害が起こったその時だけ高くなるが、すぐに意識が薄くなってしまう。
まとめ	令和6年1月1日に発生した石川県能登半島地震や南海トラフ地震への警戒など、日々防災に関する意識付けの必要性は高まっている。実際に八尾市で災害が起きた場合、各制度や対応するマニュアルは用意されているが、それを実際に地域住民がどこまで知り、実行できるのかが課題となっていた。また、八尾市の場合は市街地と山側で災害リスクの質は大きく変わる。報道での災害は「地震」について多い傾向にある。市の特徴に合わせて土砂崩れや水害、液状化現象、異常気象などその他の防災について意識していく必要がある。 災害について話す機会が少ないことから、今期のテーマをもうけ、グループワークや八尾市危機管理課による学習会、避難所運営ゲームを通して避難所の実情をわずかでも体感し、体験談の共有などを行った。このことを地域ケアケース会議委員のみではなく、委員が関わる地域の人に広げていくことが重要である。個々で想像していたこと以外にも、グループワークで新しい課題の発見にもつながった。それぞれの地区で、機関で、良い対策をしているが、それを共有できていなければ点と点のままで、災害時には連携が図れない。点を線に、面にしていくためにも住民と話し合う機会や、ICTを活用した意識づけなどに、取り組んでいく必要がある。	・八尾市危機管理課より、「八尾市で想定される南海トラフ地震時の被害や石川県での避難所の状況」 ・社会福祉法人八尾隣保館より、「大阪 DWAT として災害ボランティアに行かれた活動内容と平常からの地域の繋がりの重要性について」 ・八尾市社会福祉協議会より、「災害時における福祉避難所等の協力に関する協定と災害時支援について」 上記説明や質疑応答で想像以上に被害に遭った事を知り、委員間で防災意識を高めた。また、現地でボランティア活動された方からは高齢者の孤立問題、避難所衛生問題の話、生活必需品の備蓄について教えていただく事ができた。 グループワークでは「避難の声かけのタイミングの難しさ」「平時から隣近所、地域との繋がりが大切」「電話は不通でも LINE は通じるので、高齢者にも説明し普及が必要」「薬は最低1週間分の予備を持っておく」「無事旗活動を続ける地域では防災意識が高まっている」等の意見があがった。 3 機関からの説明、グループワークを経て得た情報を、各委員が自組織に持ち帰り、防災意識や危機意識を高め、「災害を我がごととして捉え、こんなはずではなかったと後悔する事が無いように」と継続して防災意識を高め、備える必要がある。大規模災害に1人1人が備え、基本は「自助」だと伝えていく。

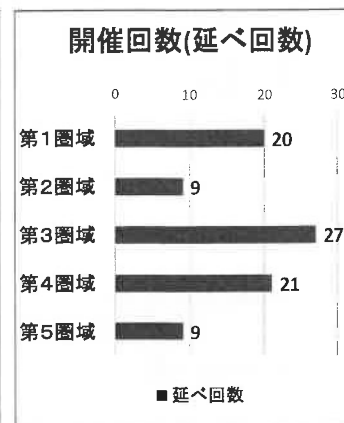
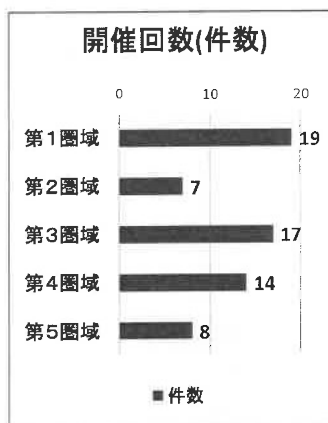
令和6年度地域ケアケース会議随時会議

R6年12月末現在

1. 随時会議の開催状況・内訳

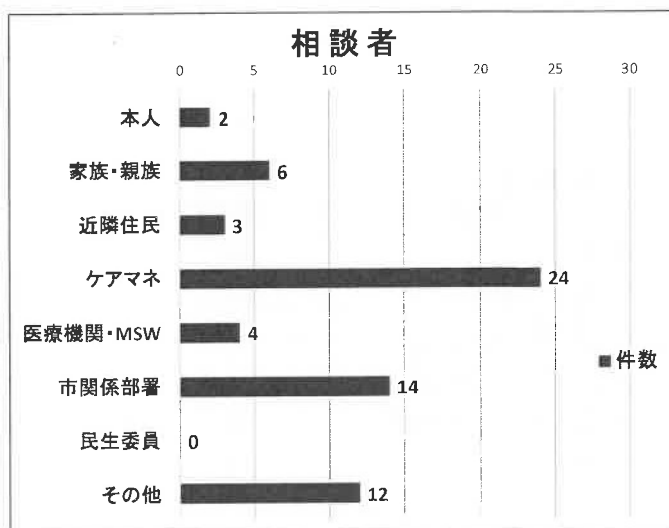
【開催回数】

	件数	延べ回数
第1圏域	19	20
第2圏域	7	9
第3圏域	17	27
第4圏域	14	21
第5圏域	8	9
合計	65	86



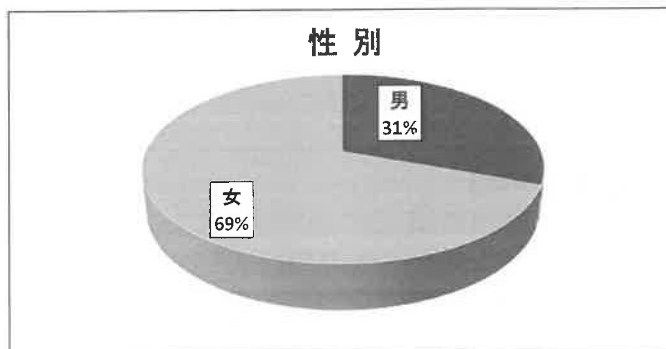
【相談者】

相談者	件数
本人	2
家族・親族	6
近隣住民	3
ケアマネ	24
医療機関・MSW	4
市関係部署	14
民生委員	0
その他	12
計	65



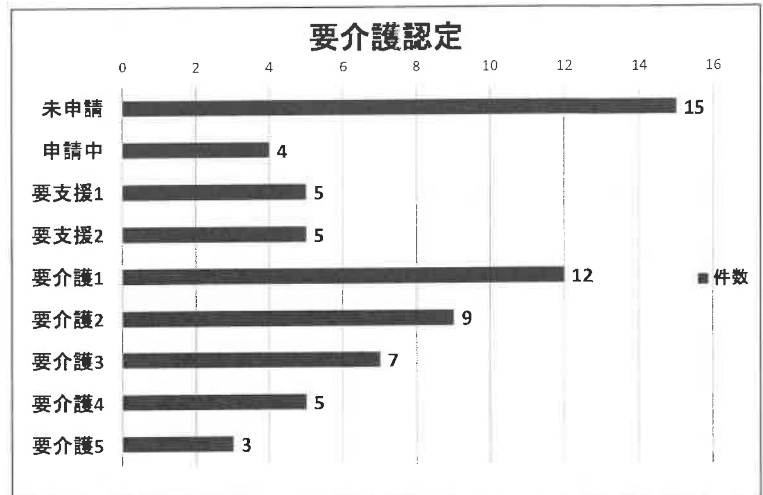
【性別】

性別	件数
男	20
女	45
計	65



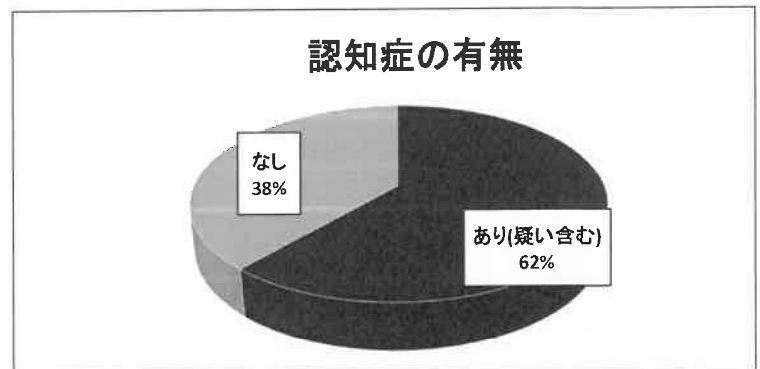
【要介護認定】

介護認定	件数
未申請	15
申請中	4
要支援1	5
要支援2	5
要介護1	12
要介護2	9
要介護3	7
要介護4	5
要介護5	3
計	65



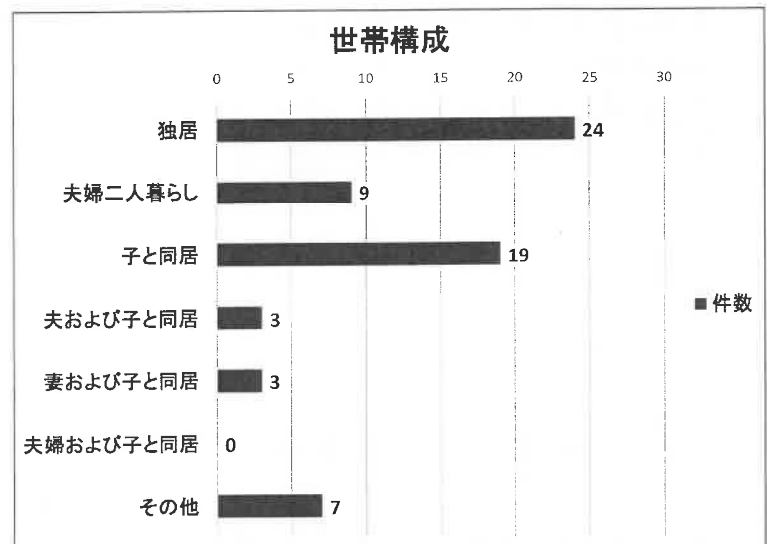
【認知症の有無】

認知症	件数
あり(疑い含む)	40
なし	25
計	65



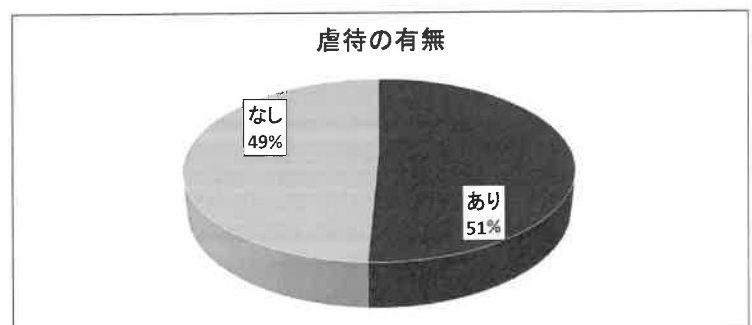
【世帯構成】

構成	件数
独居	24
夫婦二人暮らし	9
子と同居	19
夫および子と同居	3
妻および子と同居	3
夫婦および子と同居	0
その他	7
計	65



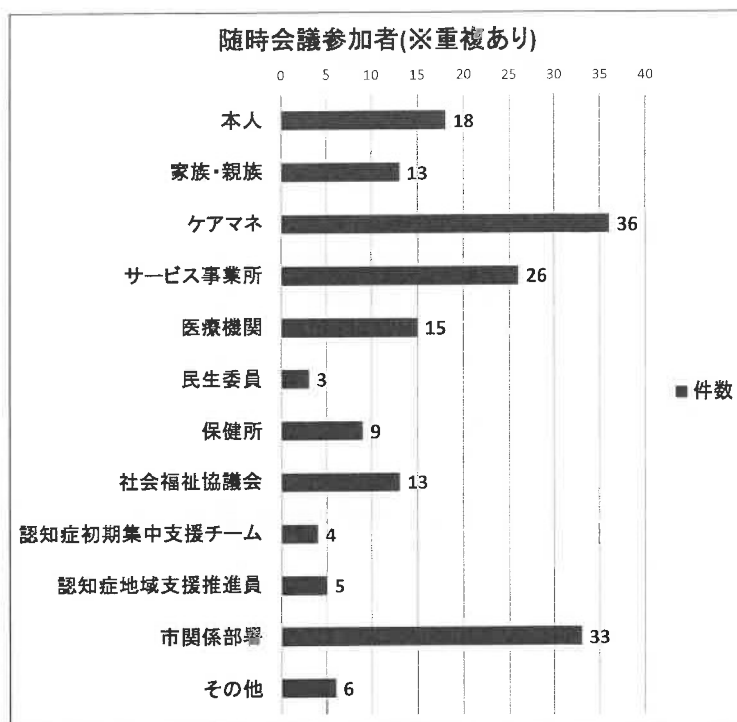
【虐待の有無】

虐待通報	件数
あり	33
なし	32
計	65



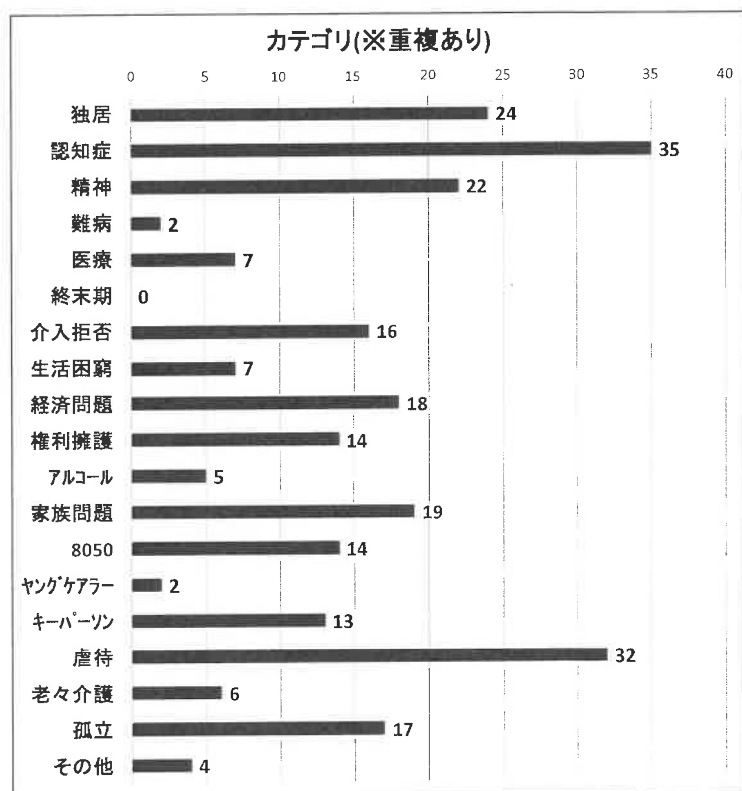
【随時会議参加者 ※重複あり】

参加者	件数
本人	18
家族・親族	13
ケアマネ	36
サービス事業所	26
医療機関	15
民生委員	3
保健所	9
社会福祉協議会	13
認知症初期集中支援チー	4
認知症地域支援推進員	5
市関係部署	33
障がい福祉課	11
生活福祉課	9
高齢介護課	8
地域共生推進課	4
出張所等	1
その他	6
計(延べ件数)	181



【カテゴリ ※重複あり】

カテゴリ	件数
独居	24
認知症	35
精神	22
難病	2
医療	7
終末期	0
介入拒否	16
生活困窮	7
経済問題	18
権利擁護	14
アルコール	5
家族問題	19
8050	14
ヤングケアラー	2
キーパーソン	13
虐待	32
老々介護	6
孤立	17
その他	4
計(延べ件数)	257



2. 随時会議の経年推移

【件数】

	R4年度	R5年度	R6年度
随時会議	76	70	65
自立支援型	12	7	3
生活援助	5	1	3

【回数】

	R4年度	R5年度	R6年度
随時会議	94	101	86
自立支援型	4	3	3
生活援助	3	1	3

※令和6年度については令和6年12月末現在

令和6年度 地域ケアケース会議(地域の実態把握)

地域の実態把握のために、事務局である高齢者あんしんセンターが地域の関係機関などに積極的に出向き、地域の高齢者に関する実態や社会資源の情報収集を行い、地域ケアケース会議に、その意見をあげていくように努めている。

内容

- ① 地域の現状の把握 ② 社会資源情報の集約及び提供

現状

- ① 地域ケアケース随時会議(地域の実態把握)

【会議を行った団体数】

テーマ 圏域	認知症	見守り	介護予防	地域連携	防災	その他 (※)
1 圏域	10	23	18	9	1	6
2 圏域	13	13	51	28	3	2
3 圏域	10	14	13	10	4	1
4 圏域	46	22	29	30	2	15
5 圏域	24	20	50	33	2	9

※その他内訳

熱中症、世代間交流、防犯、交通安全対策、事例学習、地域の情報収集、
人生会議の啓発、ヤングケアラー

※団体の詳細については、別紙参照

- ② 合同専門職会議

高齢者あんしんセンターでは、職種にこだわることなく、それぞれの専門性を活かした視点から「課題の共有」、「職種間の意思疎通」、「チームアプローチの実践」を目的に各テーマを設定し、合同専門職会議を開催している。

「地域支援ネットワークづくり会議」では、地域の様々な課題に対し地域や各関係機関と連携を図りながら、その解決を目指す取り組みを行っている。

「介護予防推進会議」では、自立支援に向けて高齢者・ケアマネジャー・サービス提供事業者の意識を高める取り組みを行っている。

「ケアマネジャー連携会議」では、ケアマネジャーとのより深い連携を目指した取り組みを行っている。

- ③ 高齢者虐待ケース全体評価会議(レビュー会議)

高齢者虐待情報を一元的に管理し、地域的な傾向の把握、ケースに共通する課題や地域課題の抽出、虐待防止に向けた地域づくりや体制を整えることを目指し、「レビュー会議」を開催している。

まとめ

高齢者あんしんセンターが地域に出向き、関係機関等と意見交換を行うことで、地域の課題の把握に努めている。地域での会議内容で多いものは「介護予防」「地域連携」「認知症」といったテーマが多く、地域の関心の高さがみられた。「介護予防」「地域連携」においては前年度においても関心が高いテーマとして挙がっており、より地域の関心の高さが伺える。

合同専門職会議においては各、会議でテーマを設定し、介護予防を目的とした研修会の開催や居宅介護支援事業所との事例検討会、他機関との意見交換会の開催に繋げている。

高齢者虐待の傾向からは虐待発生の背景には、精神疾患や世代間・家族間の複雑さ等、複合的な多くの課題を抱えるケースが多くみられる。

複合的な課題においては各分野別の制度だけでは対応しきれないケースが発生しており、課題解決には高齢者あんしんセンターと関係機関において課題の共有と連携が求められる。保健・福祉・医療・及び地域との円滑な調整を図りながら、認知症支援にかかる関係機関との連携等を通じ、複数の課題の共有と解決に向け、地域ケアケース会議を多職種連携の場としてより充実させ、高齢者をとりまく関係機関と連動した取り組みを実践していく。

* 会議を行った団体・開催回数

テーマ：認知症	萱	ス	北	ス	八	太	り	愛	あ	緑	楽	長	成	サ	寿	信	中
校区まちづくり協議会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
地区福祉委員会	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	0	1
民生委員・児童委員協議会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	4	0	0	2	0	1
地区自治振興委員会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
高齢クラブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自主活動グループ	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0
認知症カフェ	5	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	10	0	6	0	8	0
その他	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	9

合計 103

テーマ：見守り	萱	ス	北	ス	八	太	り	愛	あ	緑	楽	長	成	サ	寿	信	中
校区まちづくり協議会	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
地区福祉委員会	0	0	0	0	0	0	8	0	2	3	6	0	1	0	1	0	0
民生委員・児童委員協議会	8	0	0	0	0	0	1	0	8	1	3	1	0	0	2	8	1
地区自治振興委員会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	1	0
高齢クラブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自主活動グループ	0	0	1	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認知症カフェ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0
その他	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

合計 92

テーマ：介護予防	萱	ス	北	ス	八	太	り	愛	あ	緑	楽	長	成	サ	寿	信	中
校区まちづくり協議会	3	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0
地区福祉委員会	0	0	2	4	8	14	0	2	0	2	0	3	0	0	4	0	5
民生委員・児童委員協議会	0	0	0	3	0	0	0	0	8	0	0	0	1	0	2	0	0
地区自治振興委員会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
高齢クラブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	21
自主活動グループ	9	0	0	0	0	12	8	0	0	0	3	15	0	0	0	2	11
その他	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

合計 161

テーマ：地域連携	萱	ス	北	ス	八	太	り	愛	あ	緑	楽	長	成	サ	寿	信	中
校区まちづくり協議会	0	0	2	1	1	2	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	7
地区福祉委員会	0	2	0	0	0	14	0	2	0	2	0	6	0	0	4	1	5
民生委員・児童委員協議会	0	0	0	0	0	2	0	0	8	0	2	0	0	0	2	8	0
地区自治振興委員会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3	1	1
高齢クラブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
自主活動グループ	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
認知症カフェ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0
その他	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0

合計 110

テーマ：防災	萱	ス	北	ス	八	太	り	愛	あ	緑	楽	長	成	サ	寿	信	中
校区まちづくり協議会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
地区福祉委員会	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
民生委員・児童委員協議会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0
地区自治振興委員会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高齢クラブ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自主活動グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0

合計 12

テーマ：その他 (地域の情報収集、世代間交流、居場所づくり、特殊詐欺、安全対策)	萱	ス	北	ス	八	太	り	愛	あ	緑	楽	長	成	サ	寿	信	中
校区まちづくり協議会	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	11	0	0	1
地区福祉委員会	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1
民生委員・児童委員協議会	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0
地区自治振興委員会	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高齢クラブ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自主活動グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
その他	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2

合計 33

令和6年度 高齢者虐待について

R6年12月末現在

1. 養護者による虐待通報件数・内訳(在宅)

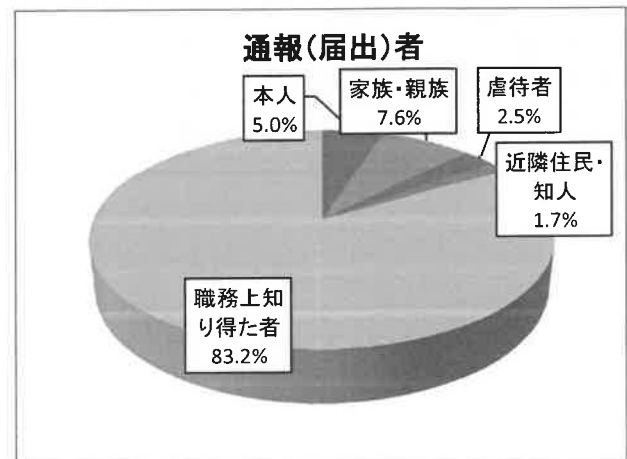
①通報(届出)件数・通報(届出)者

【通報(届出)件数】

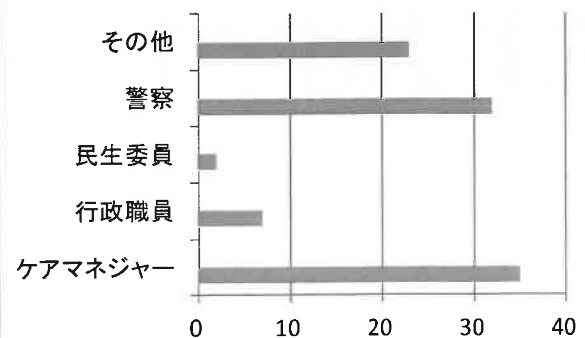
	件数
通報(届出)	114
事実確認	114
うち、虐待認定数	61

【通報(届出)者】

相談者	件数	比率
本人	6	5.0%
家族・親族	9	7.6%
虐待者	3	2.5%
近隣住民・知人	2	1.7%
職務上知り得た者	99	83.2%
ケアマネジャー	35	29.4%
行政職員	7	5.9%
民生委員	2	1.7%
警察	32	26.9%
その他	23	19.3%
計(※重複あり)	119	100.0%



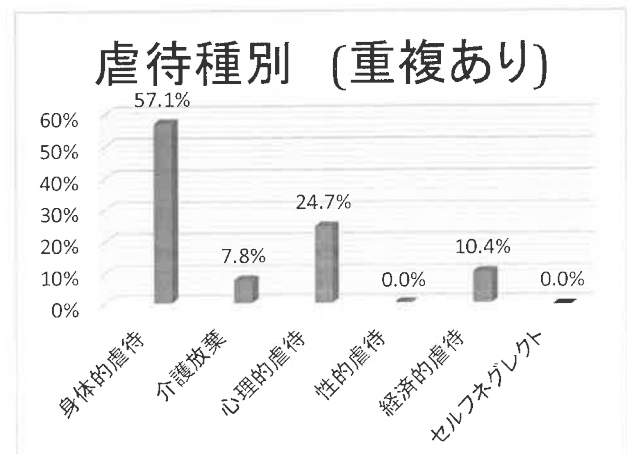
職務上知り得た者内訳



②虐待有の内訳

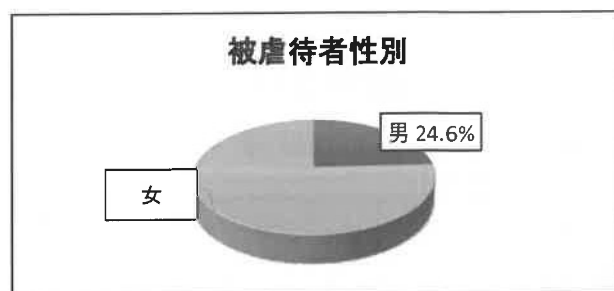
【虐待種別】(※虐待有61件の内訳)

相談者	件数	比率
身体的虐待	44	57.1%
介護放棄	6	7.8%
心理的虐待	19	24.7%
性的虐待	0	0.0%
経済的虐待	8	10.4%
セルフネグレクト	0	0.0%
計(※重複あり)	77	100.0%



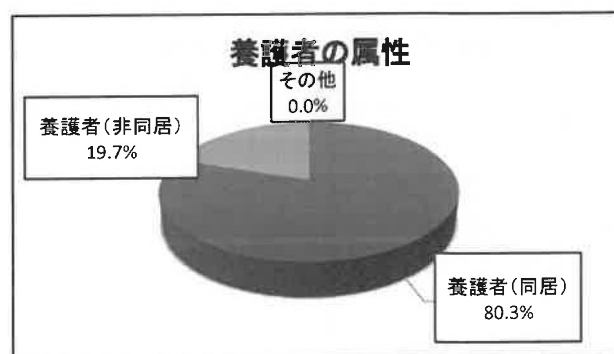
【被虐待者性別】

性別	件数	比率
男	15	24.6%
女	46	75.4%
計	61	100.0%



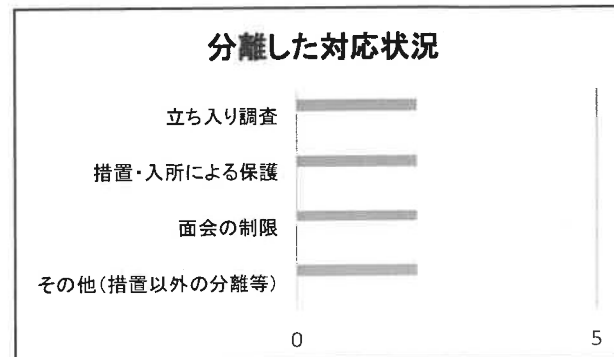
【養護者の属性】

属性	件数	比率
養護者(同居)	49	80.3%
養護者(非同居)	12	19.7%
その他	0	0.0%
計	61	100.0%



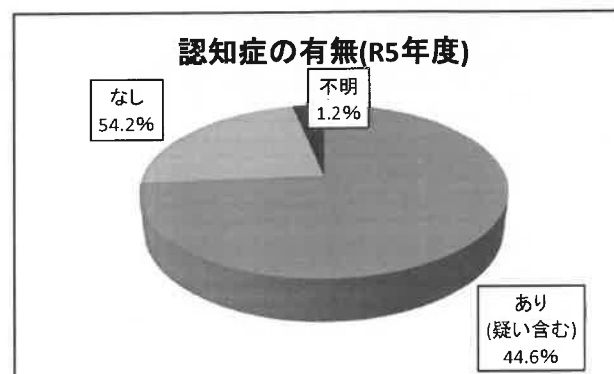
【分離した対応状況】

対応状況	件数
立ち入り調査	2
措置・入所による保護	2
面会の制限	2
その他(措置以外の分離等)	2



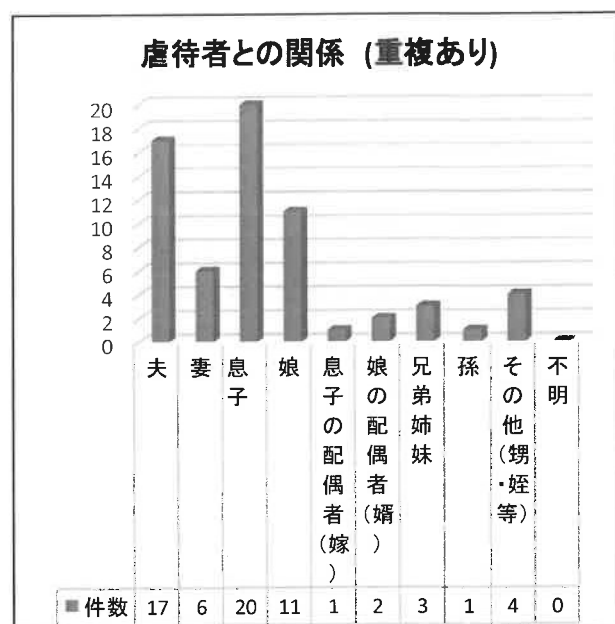
【認知症の有無】

認知症	件数			比率
	R4	R5	R6	R6
あり(疑い含む)	42	37	45	73.8%
なし	35	45	14	23.0%
不明	1	1	2	3.3%
計	78	83	61	100.0%



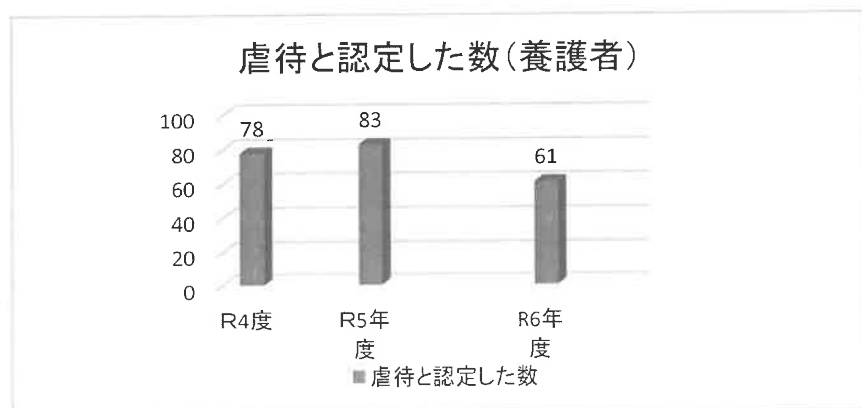
【虐待者との関係】(※虐待有61件の内訳)

虐待者との関係	件数	比率
夫	17	26.2%
妻	6	9.2%
息子	20	30.8%
娘	11	16.9%
息子の配偶者(嫁)	1	1.5%
娘の配偶者(婿)	2	3.1%
兄弟姉妹	3	4.6%
孫	1	1.5%
その他(甥・姪等)	4	6.2%
不明	0	0.0%
計(※重複あり)	65	100.0%



2. 虐待通報件数及び認定数の経年推移

種類		R4年度	R5年度	R6年度
養護者	通報(届出)件数	139	124	114
	虐待と認定した数	78	83	61
施設	通報(届出)件数	12	14	10
	虐待と認定した数	6	2	1



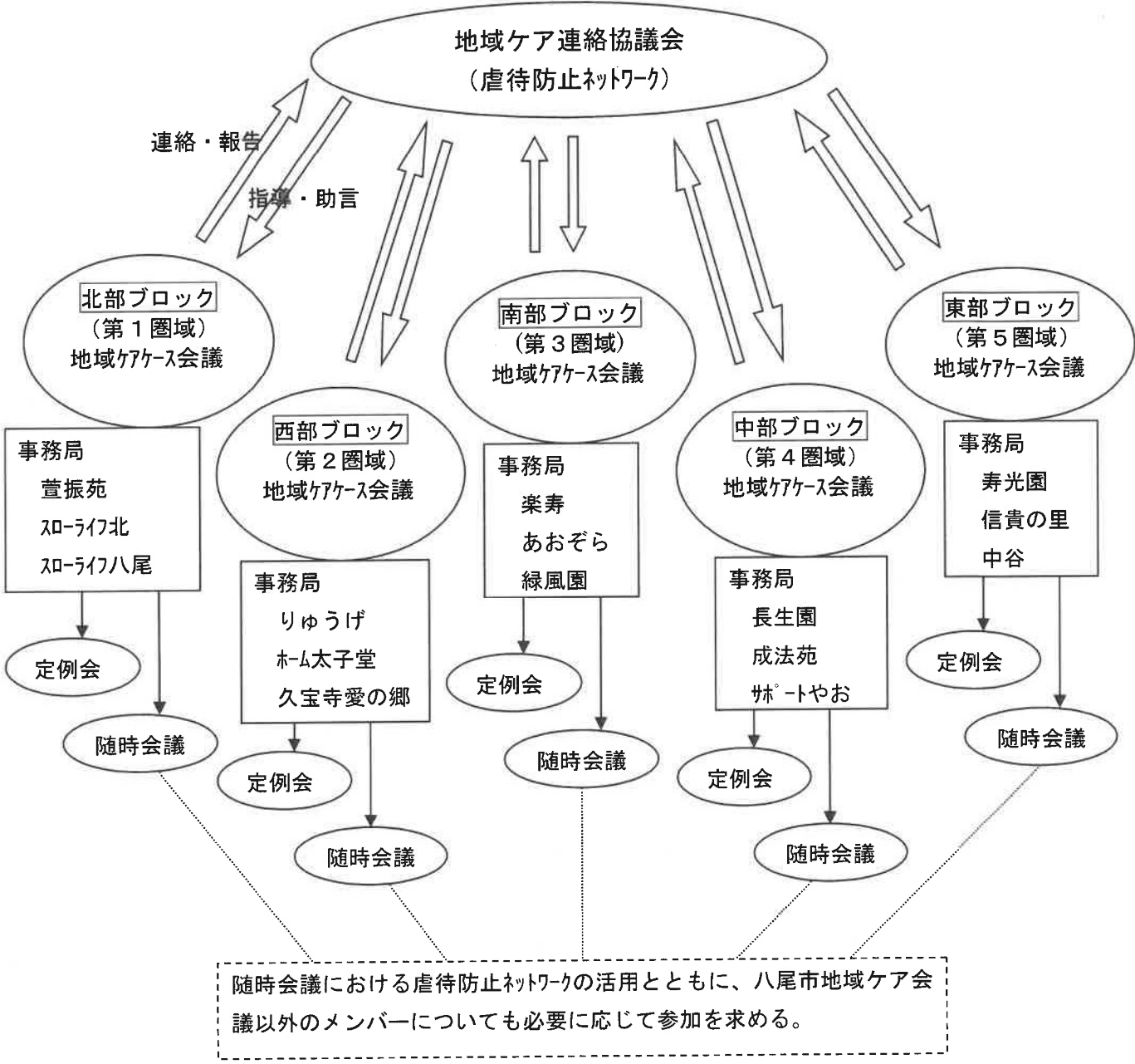
3. 成年後見制度市長申立件数

市長申立件数	R4年度	R5年度	R6年度
	7	6	7

令和7年度八尾市地域ケア会議体制（案）

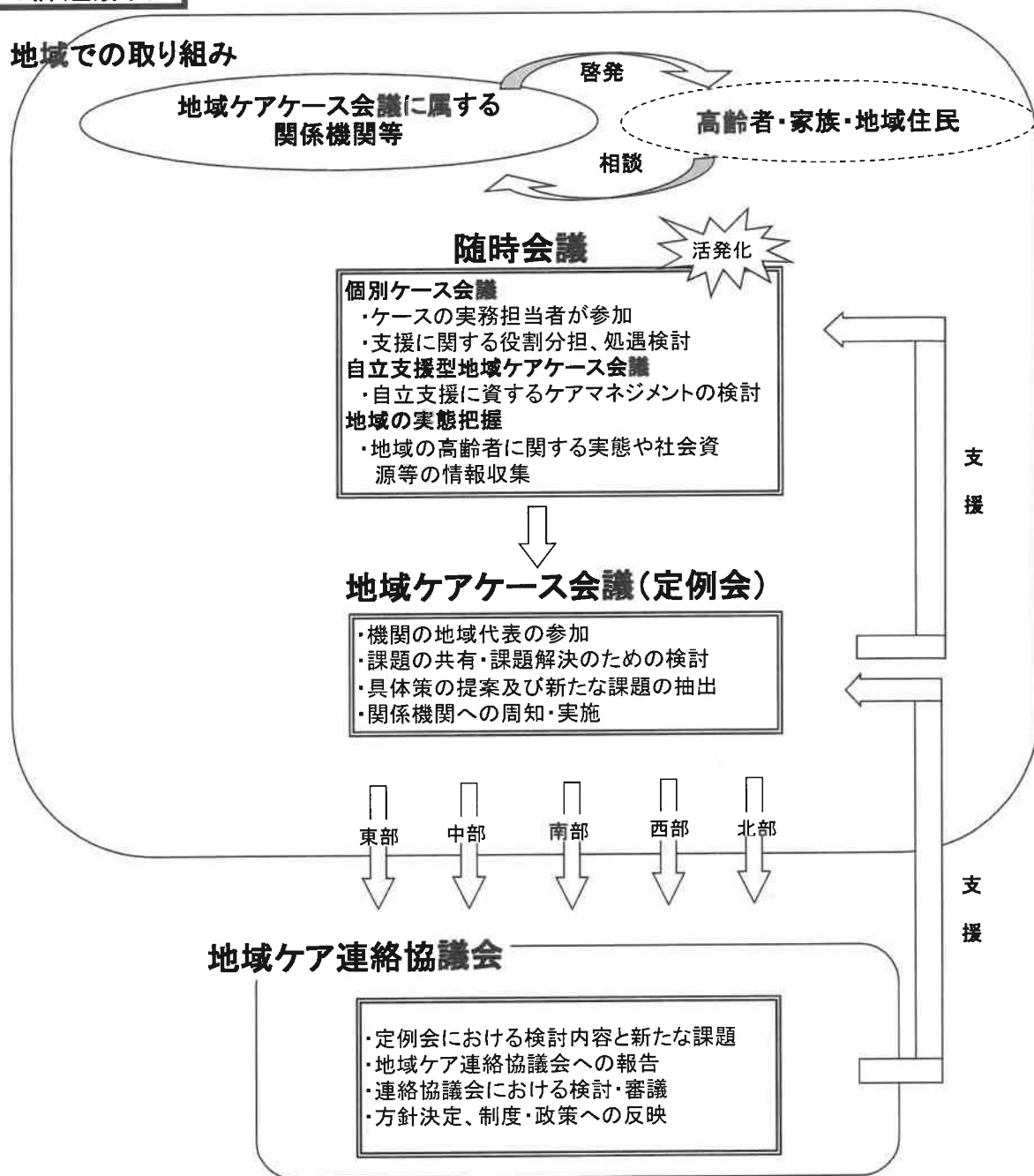
八尾市地域ケア会議

医師会・歯科医師会・薬剤師会・弁護士会・警察署・保健所・社会福祉協議会（地区福祉委員会）・民生委員児童委員協議会・訪問看護ステーション連絡会・居宅介護支援事業者部会・認知症疾患医療センター・消防署・地域包括支援センター連絡会・八尾市・その他必要な機関

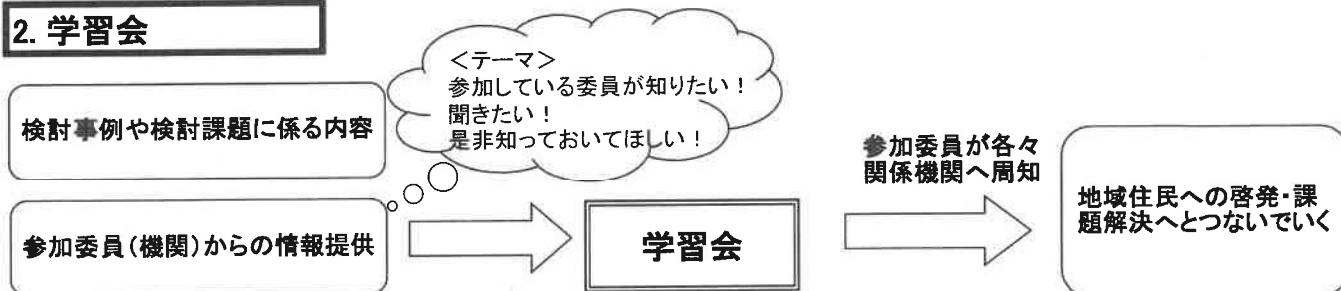


令和7年度 地域ケアケース会議の方向性(案)

1. 地域の課題解決



2. 学習会



令和7年度 地域ケア会議 年間予定表(案)

会議名	地域ケア 連絡協議会	地域ケアケース会議 定例会					地域ケアケース会議 随時会
日程	年2回	各ブロック 年6回（隔月 第4木曜日）					随時
事務局	八尾市健康福祉部 高齢介護課	北部	西部	南部	中部	東部	各ブロック事務局
		(第1圏域)	(第2圏域)	(第3圏域)	(第4圏域)	(第5圏域)	
		萱振苑 スローライフ 北 スローライフ 八尾	りゅうげ ホーム太子堂 久宝寺愛の郷	楽寿 あおぞら 緑風園	長生園 成法苑 サポートやお	寿光園 信貴の里 中谷	
令和7年4月		令和7年5月合同定例会開催予定					随 時
令和7年5月							
令和7年6月			26	26	26		
令和7年7月	第1回予定	24				24	
令和7年8月			28	28	28		
令和7年9月		25				25	
令和7年10月			23	23	23		
令和7年11月		27				27	
令和7年12月			25	25	25		
令和8年1月		22				22	
令和8年2月	第2回予定	令和8年2・3月合同定例会開催予定					
令和8年3月							

令和6年度八尾市認知症地域支援推進員業務実施報告書

令和6年度八尾市認知症初期集中支援事業実施報告書

チームオレンジ活動について

(中間報告)

令和6年度八尾市認知症地域支援推進員業務実施報告書（医療法人 清心会）

【認知症地域支援推進員業務】

R6年12月末現在

業務実績	今後の予定
1. 地域におけるネットワーク体制の支援 関係機関に対してPR 91回 (チームオレンジ活動、施設・事業所訪問等) 地域ケア会議等への出席 16カ所/2人 2. 地域における認知症高齢者やその家族を支援する相談支援や体制の構築 - 相談件数 114件（実件数 40件） 内 若年性認知症 40件（実件数 5件） 【内訳】本人・家族16件、関係機関98件 * 関係機関では、他市からの相談も増えている - 認知症サポーター養成講座 23回 - 認知症高齢者声掛け体験 1回 - 包括家族介護・介護予防教室など 18回 - オレンジパートナー養成研修 1クール(2時間×2日間) - 地域福祉デビュー講座（認知症理解）2回 - 介護予防サポーターステップアップ講座2回 - オレンジパートナーのつどい 2回 - やおオレンジカフェ 22回 - おれんじ教室“脳りちゃん”242回/9カ所 - オレンジパトロール 22回（5地域） - オレンジミーティング 9回（1カ所） - おれんじルーム（認知症介護者交流会 7回/2カ所 *おれんじルーム参加者の話を“聞き書き本”として製作 - 地域、団体へ認知症(予防)教室・講座 8回 (高砂地区認知症教室、刑部地区いきいきサロン、柏村寿幸会、高美南小学校地区まちづくり協議会、高安西地区、シルバー人材センターきらめきフェスタ、障がい者団体連合会) * アルツハイマー月間イベント（9月）開催 - オレンジパトロール（清掃活動編） - 認知症啓発上映会“オレンジランプ” - やおオレンジカフェ“まちがってもいいアフタヌーン” - 認知機能集団検査“ファイブ・コグ”1回 3. 認知症ケア及び医療との連携体制構築に対する支援 - 医療機関との連携 12回	- 包括、介護保険事業所等と定期的に認知症に関する地域課題の情報共有を行う機会をもつ。 - 地域ケア会議へ出席し、関係機関へ認知症地域支援活動の状況を定期的に発信していき、連携機会を定期的に持てるようにしていく。 - 認知症ケアパスの配布を教室、講座、イベントなどを通じて市民に広く行い、相談窓口としての“やおオレンジダイヤル”の周知も行っていく。 - 若年性認知症、認知症への支援体制を高齢以外の分野とも構築できるように働き掛ける。 - 認知症本人、家族の声を地域へ情報発信する機会をつくる。 “新しい認知症観”を啓発するため、認知症サポーター養成講座を全圏域開催で企画していく。また、地域団体、民間会社への啓発機会を働きかけていく。 - キャラバンメイトの活動が身近な地域で持てる機会をつくりながら、市全体での啓発体制を強化していく。 - キャラバンメイト、オレンジカフェ、オレンジパートナーの連絡会を開催し、情報交換や連携体制を構築しながら、認知症本人の社会参加支援を行える社会資源をつくっていく。 - 認知症高齢者声かけ体験の機会を増やし、地域での見守り体制を構築していく - オレンジカフェ、地域カフェ開催など関係機関と連携して行い、居場所作りの働きかけを行う。 - オレンジカフェとしては、若年性認知症本人・家族の交流機会、また認知症本人がスタッフとして活動できる場所をつくっていく。 - 認知症初期、MCI などの方への社会資源として、おれんじ教室（脳トレ教室）を開催。誰もが気軽に楽しみながら人と早期につながりをもてる居場所であることを広く啓発する。 - オレンジパトロールの活動を地域活動の一環として施設の取組としてできるように働き掛けていく - オレンジミーティングの活動を通じながら認知症本人交流会としても開催し、オレンジパ

・関係機関との会議に参加 72回 (包括、地域の会議、認知症初期集中支援チーム 員会議、地域密着型サービス運営推進会議など) ・中河内地区認知症施策関連連絡会開催 1回 ・認知症対応力向上研修実施(動画配信) 居宅介護支援事業所向け：若年性認知症支援 施設職員向け：レビー小体型認知症についての 基礎的知識と支援のポイント等 在宅サービス職員むけ：認知症介護の家族支援 4. 事業の推進に関すること ・おおさか認知症希望大使委嘱式参加 ・大阪・関西万博における認知症に関する情報 発信事業企画委員会出席 2回 ・大阪府オレンジコーディネーター研修 1回 ・各種研修、勉強会、講座、認知症疾患医療セ ンター受診同席(OJT)等へ参加 43回 ・大阪府認知症地域支援推進員連絡会参加 1回 ・認知症地域支援推進員(現任者)研修各 1回 ・若年性認知症に関する研修 2回	・パートナー等とともに“本人のしたいこと”を実 現していく。(認知症本人の“声”をきく) ・認知症の家族支援の場として、おれんじルー ム(認知症介護者交流会)を定期開催してい く。 ・チームオレンジ活動として、おれんじ教室や オレンジパトロールにオレンジパートナーが 多く参加できるような仕組みを考えていく。 ・若年性認知症本人の定期的な活動、集い場所 を大阪府若年性認知症コーディネーター、地 域の関係機関と連携しながら作っていく。 ・認知症疾患医療センター、包括などと定期的 な情報交換を行い、医療、介護など多職種連 携を円滑に行えるように関係機関へ働きかけ ていく。 ・認知症初期集中支援チーム員会議に出席して、 個別ケースから見える地域課題の抽出を行 う。また、ケースに応じて本人の社会参加支 援、家族支援に繋げていけるようにする。 ・中河内地区認知症施策担当者と支援体制や活 動状況の情報共有、意見交換を行いながら、 広域での連携体制を構築していく。 ・“認知症希望大使”の活動を通じて広域に認知 症の啓発をおこなっていく。 ・認知症疾患医療センターの受診同席やカンフ ァレンス等に同席し、本人、家族、支援者な どの思い、鑑別診断の理解を深める。
--	--

令和6年度八尾市認知症初期集中支援業務実施報告書（医療法人 清心会）

【認知症初期集中支援推進事業】

R6年12月末現在

業務実績	今後の予定
1. 支援チームに関する普及啓発 - 各種会議に参加 - 地域包括支援センター管理者会議 - 虐待レビュー会議 - 地域ケアケース会議 - 地域ケアケース会随時会議 等 - 中河内認知症施策関連連絡会出席 2. 認知症初期集中支援の実施 - 新規相談 17 件 - 新規介入件数 14 件 - 訪問件数（延べ） 110 件 - サポート医訪問件数 5 件 - 終了件数（前年度からの継続ケース含む） 20 件 - 連絡・調整件数 198 件 - チーム員会議 30 件 - モニタリング 14 件	- 今後も引き続き、地域の中で対応困難とされるケースについて、随時会議に積極的に参加し、支援についてともに検討する。 - 初期集中支援の実際として、認知症とは異なるケースへの対応も必要となっている。これは各地域包括単独では対応が難しく相談先に苦慮する場合があるためでもある。こういったケースへのマネジメントに対し、精神科医療の視点も持った初期集中の担当者が事前に話し合いの場に出向き、ともにアセスメントできるよう働きかける。 - 行政から期待されている対応件数よりも実際の件数が伸びない課題がある。相談元である地域包括に働きかけるだけではなく、チーム内のどのスタッフも同じように動けるよう、当初期集中支援のガイドラインを明文化できるよう準備を進めていく

チームオレンジ活動について

チームオレンジとは、認知症の本人やその家族を早期の段階から地域で支えるため、オレンジパートナー等が認知症の本人やその家族への支援を行う仕組みのことです。

チームオレンジ活動報告（令和6年12月末時点 実績）

【認知症月間（9月）の取り組み】

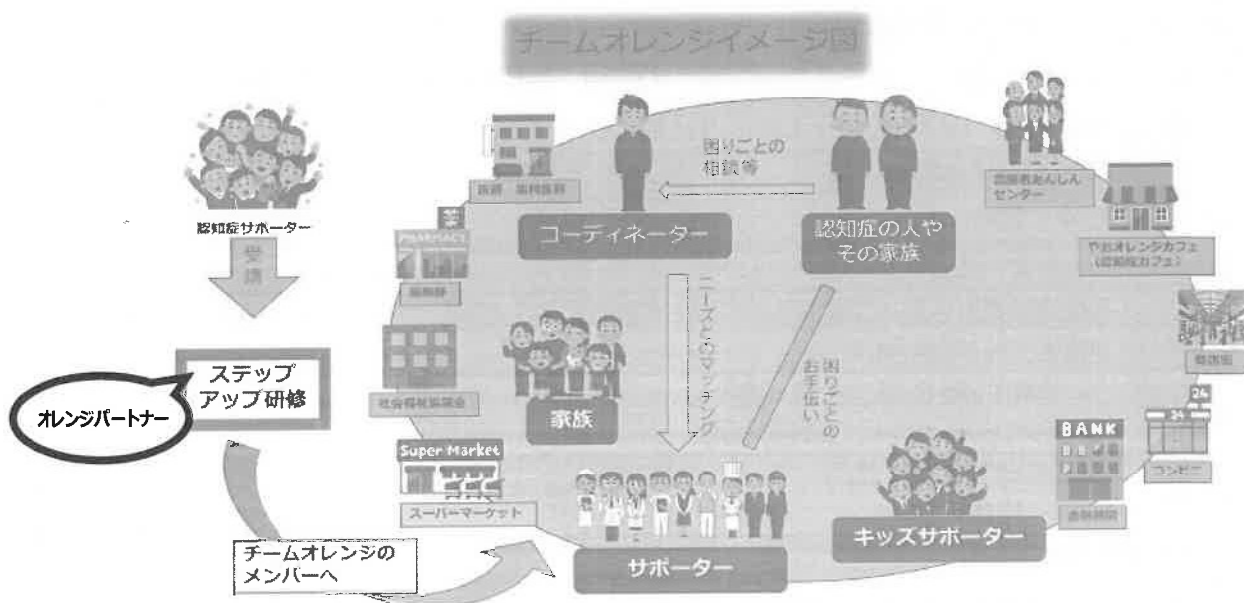
① ファイブ・コグ（高齢者用集団認知検査）			
内 容	「ファイブ・コグ検査」の実施		
日 時	令和6年9月18日（水）		
講 師	認知症地域支援推進員 山本 哲也 氏	参加人数	22 人
② オレンジパトロール			
内 容	清掃活動		
日 時	令和6年9月20日（金）	参加人数	29 人
③ 認知症啓発講演会上映会			
内 容	若年性認知症当事者の実話をもとにした映画「オレンジ・ランプ」の上映 八尾市での取り組み紹介		
日 時	令和6年9月27日（金）	参加人数	109 人
④ まちがってもいいアフタヌーン			
内 容	認知症カフェイベント（ボランティアによる演奏、障がい者作業所によるお弁当等の販売）		
日 時	令和6年9月27日（金）		116 人
⑤ 八尾図書館「認知症月間」展示 ※八尾図書館との共催			
内 容	展示コーナー（1階児童コーナー、2階大人向けコーナー）にて認知症に関する展示		
日 時	令和6年8月30日（金）～9月25日（水）		

【その他】

① オレンジパートナー養成研修			
内 容	認知症の理解、「チームオレンジ」の説明、認知症高齢者声掛け体験の実施		
日 時	令和6年12月11日（水）、12月18日（水）		
講 師	認知症地域支援推進員 山本 哲也 氏	参加人数	12 人
② オレンジパートナーのつどい			
内 容	認知症月間（9月）におけるイベントの説明、協力依頼、今後の「チームオレンジ」活動について話し合い		
日 時	① 令和6年8月23日（金） ② 令和6年10月30日（水）		
講 師	認知症地域支援推進員 山本 哲也 氏	参加人数	① 16 人 ② 15 人
③ 中河内圏域 認知症をともに考える会			
内 容	中河内圏域において、認知症支援に関わる支援者間での情報共有		
日 時	令和6年 7月 11日（木） Zoom 開催		

参加人数	27人（八尾市8人、東大阪市14人、柏原市5人）		
④ 認知症対応力向上研修			
内 容	認知症本人主体の介護を行い、認知症の人の対応力を向上するための研修		
日 時	・施設サービス事業者向け：令和6年10月10日（木）～10月31日（木） ・居宅介護支援事業者向け：令和6年11月11日（月）～11月29日（金） ・居宅サービス事業者向け：令和6年12月9日（月）～12月27日（金） （YouTube 配信）		
講 師	・医療法人清心会 八尾こころのホスピタル 柏井 洋平 医師 ・大阪府若年性認知症支援コーディネーター 中牟田 なおみ 氏 ・医療法人清心会 八尾こころのホスピタル 谷口 かおり 認知症看護認定看護師	視聴回数	・施設サービス事業者：111回 ・居宅介護支援事業者：125回 ・居宅サービス事業者：181回
⑤ 認知症本人大使「おおさか希望大使」委嘱			
内 容	地域版認知症希望大使の委嘱		
委嘱式 日 時	令和6年9月17日（火） ※支援者として認知症地域支援推進員 山本 哲也氏が同席	人数	1人

※全ての活動は、認知症地域支援推進員が中心となって実施しています。



<出典：厚生労働省作成資料を元に一部改編>

令和6年度八尾市生活支援コーディネーター業務実施報告書
(中間報告)

令和6年度八尾市生活支援コーディネーター業務実施報告書(社会福祉法人 八尾市社会福祉協議会)

1. 人材発掘・活動の担い手づくり、社会資源・地域資源の発掘

実績	評価と今後の課題
(1)シニア向け地域福祉オリエンテーション(2回) (2) ガイドブックツアー(2回) 「まずは何かをしてみたい」と思っている方を対象に八尾市の活動や情報が載ったガイドブックを配布し、情報提供を行った。そのガイドブックに掲載されている場所を見学するガイドブックツアーも実施した。今年度は、初めて昨年のガイドブックツアー参加者に担い手として参加してもらった。 (3)シニア向け地域福祉デビュー講座(2クール) これから何かを始めたいと思っている方を対象に、全6日間の講座を2クール実施した。各回にグループワークを設け、受講生同士で交流が深まるよう工夫を行った。 (4)シニア向け地域福祉リーダー養成講座 現在ボランティア活動や地域福祉活動を実施している方を対象に、全5日間の講座を実施し、地域でリーダーとして活動していくのに必要な知識を学んでもらった。	(1)(2)シニア向け地域福祉オリエンテーション参加者が次につながるように、期間をあげずにガイドブックツアーを開催できた。それにより参加者同士の繋がりが生まれ、地域内でも繋がりを持っている。 (3)各回にグループワークを設けたことで、初日から参加者同士が打ち解けやすくなった。講座終了までに参加者同士での関係が構築され、新たな人脈育成にも繋がった。 (4)リーダーとしての知識を学んでもらい、地域でのリーダー役を増やすことができた。 オリエンテーションや講座参加者が、受講後に何か活動に繋がっているのかを把握に努め、活動に参加していくための支援を行う。

2. 他機関連携による取組み

実績	評価と今後の課題
(1)サードプレイスバスケット(2回) ・運動を通して、新たな仲間づくりや健康増進、介護予防を目的に、株式会社NKS-405と連携し、ウォーキングバスケットボール体験会を実施した。 1回目:10月3日、参加者:8名 2回目:12月10日、参加者13名 ・シニア向け地域福祉オリエンテーション講座受講生や、地区福祉委員会、民生委員児童委員協議会、社協HP等、幅広く市民へ広報周知を行った。 ・1回目の体験会終了後に、株式会社NKS-405と2回目の体験会に向けて打合せを重ねた。1回目の反省点や参加者の声を企業に伝えながら、より高齢者が楽しく参加できるように相談を行った。	当日の参加者からは、「久しぶりに体を動かすことができ楽しかった」「バスケットが初めての経験だったが高齢者でもできる内容でよかった。」と好評をいただいた。 2回目の体験会については、1回目から参加してくれていた人から、「1回目より改善があり楽しめた」との声があった。 しかし、今回の体験会は、幅広く広報をしたものの参加者が少なかった。「また体験会をしてほしい」との声もあるが、ほとんどの参加者は、場所が遠く行くのが大変との声が多かったため、実施場所の検討も必要である。 今後も企業等他機関と協力しながら、居場所づくりや参加できる場づくり等に努める。

3. 関係機関とのネットワークづくり、協働の場づくり

実績	評価と今後の課題
(1)第2層協議体 全地区共通で、ワークショップテーマを「〇〇地区の良いところ、もっとこんな〇〇があったらいいな!」とし、地域の魅力、ちょっと困っていること、あったらいいなの意見を出し合ってもらった。	

① 長池地区 実施日：8月9日、参加人数：30名 コロナの流行により止まっていた活動を委員長と打合せを重ねワークショップを再開した。 ② 八尾第二地区 実施日：6月18日、参加人数：12名 ワークショップでの中に出た「高齢者が気軽に集える喫茶ができればいいな」という声から、新たに喫茶活動（ゆるりカフェ）が始まった。 ・ゆるりカフェ 9月7日、参加人数：39名 1月11日実施予定、参加予定人数：20名 ③ 他地区でもワークショップを実施 （高砂地区、西郡地区、亀井地区、大正北地区、高美地区、南高安地区） 6地区でもワークショップを開催し、みんなのできることややってみたいことの話し合いの場づくりを行った。	① 地域の魅力では、「地域住民の人柄や社会資源が色々ある」「ふれあい喫茶が老若男女問わず集まる」等の意見があった。ちょっと困っていることでは、「ゴミ出しや電気の取り換えに困る」「男性が外出できる場がない」等の意見があった。あったらいいなでは、「子どもの遊び場があればいい」「気軽に集まって、遊べたりお茶が飲める場が増えたらいい」等の意見があった。 若い人が参加しやすい時間帯での開催としたことで、小学校PTA 役員の参加に繋がった。 ② 地域の魅力では、「商店街があり、買い物がしやすい、交通の便がいい」「地域の団結力がある」等の意見があった。ちょっと困っていることでは、「担い手の高齢化」「本当につながってほしい独居高齢者の方へのアプローチ」等の意見があった。あったらいいなでは、「気軽に集える100円喫茶」「独居高齢者の外出するきっかけづくり」等の意見があった。 その中の、「高齢者が気軽に集える喫茶」ができればいいなという住民の声をもとに、新たに喫茶活動（ゆるりカフェ）が始まった。喫茶立ち上げに向けて、地域住民と喫茶の協議を重ね、高齢者あんしんセンターとも連携を図りながら取り組みを進めた。 1月11日には参加者へ地域の高齢者の現状や困りごと、担い手づくりについてのアンケートを実施予定。今後の地域課題解決に向けてアンケート結果を担い手と共有していく。 ③ 6地区からも子どもや若い世代との交流を望む声が多く挙がっていた。
	新たな場づくりを検討する中で、拠点が課題となっている。既に活用されているコミセンや集会所等以外に居場所となる資源の把握ができていないため、今後は資源の活用状況の調査や資源の把握に努める。